

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 5 月 15 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	田島夏子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
韓国・濟州島	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
韓国濟州島に生息する野生ミナミハンドウイルカの観察	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 26 年 4 月 29 日 ~ 平成 26 年 5 月 5 日 (7 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
Ms. Soojin Jang (Ph.D student of Ewha Womans University) , Dr. Byung-Yup Kim (Professor of Jeju National University)	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
研究内容 今回の渡航では、韓国濟州島周辺に生息する野生ミナミハンドウイルカの予備的観察、また可能であれば船上、水中からの行動観察を行い、現地の観察フィールドの視察及び現地の研究者との情報交換を目的とした。天候に恵まれず、船上、水中からの観察は行えなかったが、陸上からの目視によって本海域に生息するミナミハンドウイルカの個体群の行動を観察することができ、現地で観察を行っている Ms. Soojin との共同研究の話し合いも進めることができ、本調査地が、新たな野生ミナミハンドウイルカの行動観察フィールドとなる可能性を得ることができた。	
調査結果 本渡航での調査日程と努力量は、以下の通りである。 4 月 30 日 : 9 時~16 時 北西部~南西部 5 月 1 日 : 9 時~15 時 北西部~南西部 5 月 2 日 : 9 時~16 時 北西部~南西部 5 月 4 日 : 6 時半~16 時 北東部~南東部、南西部~北西部 調査方法としては、海岸沿いを車で走行し、陸上からの目視観察を行った。イルカの群れを発見次第、可能な限り陸路から群れを追いかけ、頭数、行動状態、岸からの距離、位置情報の記録を行った。群れの大きさは 5 個体~20 個体以上と様々であった。行動状態は、遊泳速度が遅い休息状態や、ジャンプを伴う等遊泳速度が早い移動状態などが観察された。群れの位置関係においても、群れ個体が進行方向に対して縦に長く位置する編成や、横一列に位置する編成などが見られた。スラッピングやブリーチングといわれるジャンプも多く見られた。	
	
海岸近くを遊泳するイルカの群れ	車内からイルカを探す

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



観察風景

調査成果・今後の予定

今回の調査では、悪天候により船を出すことができず、船上、水中での行動観察を行うことができなかった。しかし、陸上での目視によって、本海域個体群は、御蔵島周辺海域の個体群ではほとんど観察されないジャンプを高頻度で行うことが確認されたことから、地域間での本種の行動の差異が示唆された。今後、さらに詳細な観察と、水中での行動観察によって、未だ報告が少ない本種の地域間の行動の差異が報告できると期待される。また、現地の研究者である Ms. Soojin と Prof. Kim との情報交換と、共同研究の検討を行えたことは大きな成果である。今後、本調査地において水中での観察が迅速に行えるよう、情報提供、人材派遣等で協力していきたい。

私自身としては、野生ミナミハンドウイルカの群れ内の個体間関係に興味があるので、御蔵島個体群でデータを集めつつ、将来的に、済州島個体群でも個体識別調査を進めていくことができれば、群れの構成個体やその大きさなど、本種の社会構造の地域差を分析していきたいと思う。



Ms. Soojin と Prof. Kim と

6. その他 (特記事項など)

本渡航は、PWS 年次シンポジウムにおいてご講演いただいた Jae C. Choe 教授のご紹介によって実現することができました。快くご相談にのっていただき、Kim 教授と Ms. Soojin をご紹介していただいた Jae 教授に厚く御礼申し上げます。また Jae 教授をご招聘して下さった松沢教授、本渡航への激励をいただいた友永教授、本渡航を快く承諾して下さった幸島教授に深く感謝いたします。最後に、現地で何から何までお世話になった Ms. Soojin、調査への惜しみない協力をいただいた Kim 教授に心から感謝いたします。

本調査は、PWS プログラムの援助を受けて行いました。プログラム関係者の皆様に深く感謝申し上げます。